



今年も一年大変お世話になりました。

除夜の鐘 ご案内

カレンダーも最後の一枚となりました。  
11月半ばまで暖かな日が続いていましたが  
一気に冷え込んで冬らしくなってきました。  
皆様ご多忙の日々をお過ごしのことと存じます。

今年一年振り返ってみると、  
リオデジャネイロオリンピックで日本は過去最多の  
メダルを獲得したり、お近くの名古屋駅前に  
「大名古屋ビルヂング」がグランドオープンしたり  
明るいニュースもありましたが、  
東日本大震災から5年、震度7の熊本地震や  
ベルギーでの爆発テロなど  
悲しいニュースもありました。



申年の「申」の字は”伸ばす”との意味があり、  
実が成熟し固くなっていく状態を表すそうですが  
皆様、どんな一年を過ごされましたか？  
師走を迎え、自分に起こった出来事や  
その時その時抱いた思いなど  
それぞれ振り返りながらご家族やお友達と  
分かち合っていらっしゃることと思います。

12月31日(土) 23時45分より  
除夜の鐘

仏様、ご先祖様のおかげで  
無事どうにか2016年を終えられることに  
手を合わせて感謝いたします。



今年の締めくくりに、そして新しい年の幕開けに  
どうぞお気軽に鐘をついて本堂へお参りください。  
皆様 夜道くれぐれもお気をつけ下さい。



～ 新しい年を迎えて ～  
修正会  
1月1・2・3日(10:00～11:00)

年のはじめに、大きな声で気持ち良くお経をお唱えして  
ご一緒に一年間の無事をお祈りします。  
3日間、大般若経の転読を行いますので  
ご都合のよい日にお出かけください。

本年も皆様に大変お世話になりました。  
来年も良い一年でありますよう  
お祈り申し上げます。



# 大智寺だより

平成28年師走  
Vol.80

発行所  
大智寺

岐阜市山県北野  
668-1  
電話:058-229-1532

《Mail》  
hybsr245@ybb.ne.jp  
《ホームページ》

大智寺 検索  
<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地  
の水小屋にてご自由にお取り  
いただけます。  
又、当寺ホームページにて  
過去すべての紙面をご覧いた  
だけます。ご活用ください。

11月号発行部数  
200部

ご愛読  
ありがとうございます

1月15日(日) だいはんにやえ 大般若会  
禅寺の新年祈禱法要

10:00～法要・11:00～うどん接待・12:00～お焚き上げ



新年の五穀豊穡や無病息災、家内安全などを願って皆様にお配りする「大般若札」のご祈禱をします。この「大般若札」は、檀家様以外でもご希望される方に授与いたします。ご自宅の玄関先に貼っていただければと思います。

ご祈禱にご参加いただいた方には、お昼にアツアツのおうどんを差し上げます。12:00からは、役目を終えたお正月飾りやお塔婆類、お札やお守り、白木位牌を大智寺山門前にてお焚き上げします。どうぞなた様もお気軽にご参加ください。



～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～  
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)

お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc  
わからないこと 質問帳 ⑳

「滋賀の百濟寺にお参りした時、大きい草鞋わらじがあったけど、なんか意味があるの？」

「百寺巡礼」で有名な五木寛之氏が湖東三山のうちの百濟寺参拝時に、この大草鞋に触れて、百濟寺満願を達成されたと話題になった大草鞋。どんな意味があるのでしょうか。

お寺の山門などによく見られる仁王様は口を開けたお姿の阿(あ)形、口を閉じたお姿の吽(うん)形 二体一対で文字通り仁王立ちして祀られています。この仁王様は、もともと釈迦を守護する「執金剛神」でしたが、仏法や伽藍の守護神へと転じ、門の左右に安置されるようになり今日に至ります。



仁王像は隆々たる筋肉体質で力強い風貌から健康そのものに見えるため、「健康を祈る神」としてさらには「健脚の神」としても幅広く崇拝されました。そのため大小の草鞋が奉納されています。



特に東京浅草の浅草寺の大草鞋は、高さ 4.5m・幅 1.5m という大きさですが、「この様な大きな草鞋を履くものがこの寺を守っているのか」と驚いて魔が去っていくといわれています。大草鞋は、仁王様の御力そのものを表しているようです。



クルマや電車での移動が当然の日々、意識しないと、ますます歩くことが減っていく中、日常生活を元気に送れる寿命「健康寿命」を伸ばすカギは歩き続けること、健脚であることだそうです。新年、大草鞋にあやかり「健脚」を願うのもいいかもしれません。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から  
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典  
31ページより

30

「野<sup>の</sup>邊<sup>べ</sup>の送<sup>おくり</sup>を営<sup>あだし</sup>みて 老<sup>の</sup>いも若<sup>の</sup>きも仇<sup>の</sup>野<sup>の</sup>の」

京都市右京区嵯峨の小倉山のふもとには、昔から火葬場があり「仇野」といいました。  
仇野とは「無常の野」の意で、人の世のはかなさの象徴として  
古来、東山の鳥辺山（とりべやま）とともに併称され、歌枕にも使われてきました。

「誰とても とまるべきかは あだし野の 草の葉ごとに すがる白露」（西行）  
人は誰しもこの世に留まっていたいものだが、そんなことはできない。  
我々の命など、あだし野の草の一葉一葉にすがるようにくっついてるはかない露のような存在だ。

野邊の送り つまり火葬を目の当たりにすると  
「あんなに口うるさい人だったのに」「あんなに若くて将来有望だったのに」  
こんなにあっさり白骨になって・・・なんとまあ あっけない、と  
しみじみ命のむなしさ、はかなさを感じ、ため息が出てきますが、  
それでも寸前まで、はかない露の命なりに精一杯悲喜こもごも生きてきたことは素晴らしいこと。

「露の世は 露の世ながら さりながら」（小林一茶）  
はかないとわかっている、わかっている、でもこの世の楽しみも捨てがたい。

今更のついで

境内の赤や黄色のじゅうたんがきれいに掃除され物寂しい冬景色に切り替わると、千両の赤い実が浮き立って見えるようになります。はや一年の締めくくりの月となりました。

さて年末になると大掃除。「掃除」の語源を見てみると、「掃」は「オ（てへん）」に「箒（ほうき）」と書き、箒を持つ人を表しますが、どこを箒で掃き清めているのか示しているのが「除」の字。「**レ**（じょへん）」は人と神が相まみえるところ、神梯（かみばしこ）を表しており、「余（あます）」とは、残らず、すべてという意味があるそうです。そのため神と人が相まみえるところをすべて残らず掃き清める行為が「掃除」本来の姿ということになります。

神と人が相まみえるところ、それは本堂やお仏壇かもしれませんが、一番はやはり心の中ではないでしょうか。

掃けば散り 払えばまたも 塵積る  
庭の落葉も 人のこころも（道歌）

悲しいかな、執着・妄想という塵は年一度の大掃除で一気にかれいに、とはいきません。でも神様が新年気持ちよく神梯を降りられるよう「確かに塵がある」と認識することから掃除を始めようと思つ年末です。

今年も一年この大智寺だよりをお読みいただき、ありがとうございます。  
来年も皆様お一人お一人にとって良きお年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

木枯らしが吹くような寒い日に お豆腐グラタン

- ① お豆腐を1丁水切りし、完全につぶしてなめらかにする。
- ② マヨネーズとお味噌、それぞれ大さじ1ずつ入れて混ぜる。
- ③ お好みの具の上にかけて、チーズをのせてオーブントースターで焼く。



クリーミーなお豆腐の部分が、ホワイトソースの代わりになってヘルシーな上に栄養もしっかりとれる嬉しいお豆腐グラタン。サツマイモや人参、じゃがいも、ブロッコリーなど野菜を湯でて具にしても良し、マカロニでも良しのグラタンになります。寒い日にぴったりです。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎  
東日本大震災物故者追善供養  
毎月 第四日曜日  
定例写経会

今月の日程

12月25日(日) 一回 500円  
(朝8時~9時) (内300円は義援金)  
要申込

11月写経会 備忘録

もみじの紅葉も進み、錦のじゅうたんが広がる日曜日。山では椎茸や柚子の採れる季節となりました。今回は「元犬」という落語を楽しみながら自分たちはもともと何だったのか、隠そうとしても確かにある根本を考えてみました。人間になりたくて、今朝方、人間になった犬滑稽なようできて大切なことを教えています



大智寺の本尊様に見守られつつ、  
故人の新たな一步を本堂からお見送りする  
そんな一般葬を希望される方々へ



本堂を会場に営む 一般葬  
あれこれ

11 初七日法要

炉前にて読経をさせていただくと、和尚様は先にお寺へ戻り、初七日法要の準備をします。ご家族の皆様は小一時間ほど火葬場にて待機していただき、火葬後骨上げをしてから戻ります。葬儀をお寺で行われた場合、初七日法要は引き続きお寺を会場にさせていただくこともできますし自宅で行われる方もいらっしゃいます。

本来は死後七日目に行う初七日法要ですが、便宜を図り親族が集まっている葬儀当日に行うのが今では通例となっています。四十九日法要まで七日ごとにお経をあげる「七日経(なのかぎょう)」は二七日(になのか)以降、毎週ご自宅にておこなうこととなります。

初七日法要後は、お寺にてお食事いただくこともできますしお食事処に移動されることもあります。葬儀にてお供えされた果物類、お菓子類はあらかじめ小分けにしておき初七日法要後、参列された方々にてお下がりとして分け合います。



ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む  
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円~  
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。